

平和をつくることについて

フィリピン・ミンダナオから学ぼう

日本ASEAN友好協力50周年イベント

JICA地球ひろば

2023年12月20日

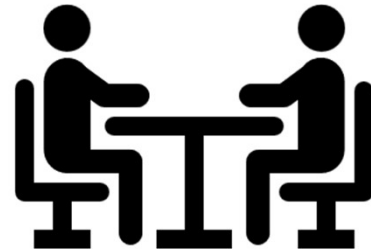
今日の話

1. 対話について考える
2. ミンダナオの紛争について
そこから学ぶこと
3. “平和”とは

※質問は、随時チャットに書き込んでください。

今日の話

1. 対話について考える



あなたの身近なところで

話したいけど話し合うのが難しい相手はいますか？

親、先生、夫婦、上司、部下、友達、兄弟、
姉妹、隣人……

どうして話し合うのが難しいのでしょうか？
どうして話し合いたいののでしょうか？

どうして話し合うのが難しいのでしょうか？

- 考え方が違う
- 話すのが面倒
- 理解し合えない、理解する気がない
- 力の差を感じる

どうして話し合いたいのでしょうか？

- ・自分の考えを分かってもらいたい
- ・自分の望むようにしたい
- ・嫌な思いをしたくない

対話による相互理解は可能か？

どうすれば、可能になるのか？

ミンダナオから考える

何が争いを生んだのか？

どういうプロセスで平和は作られるのか？

ミンダナオ和平の争点は？

第3者の役割は？日本の貢献は？

平和を作るのに大切なことは？

平和とは？

今日の話

2. ミンダナオの紛争について そこから学ぶこと

落合直之さんの話

今日の話

3. “平和をつくる”とは



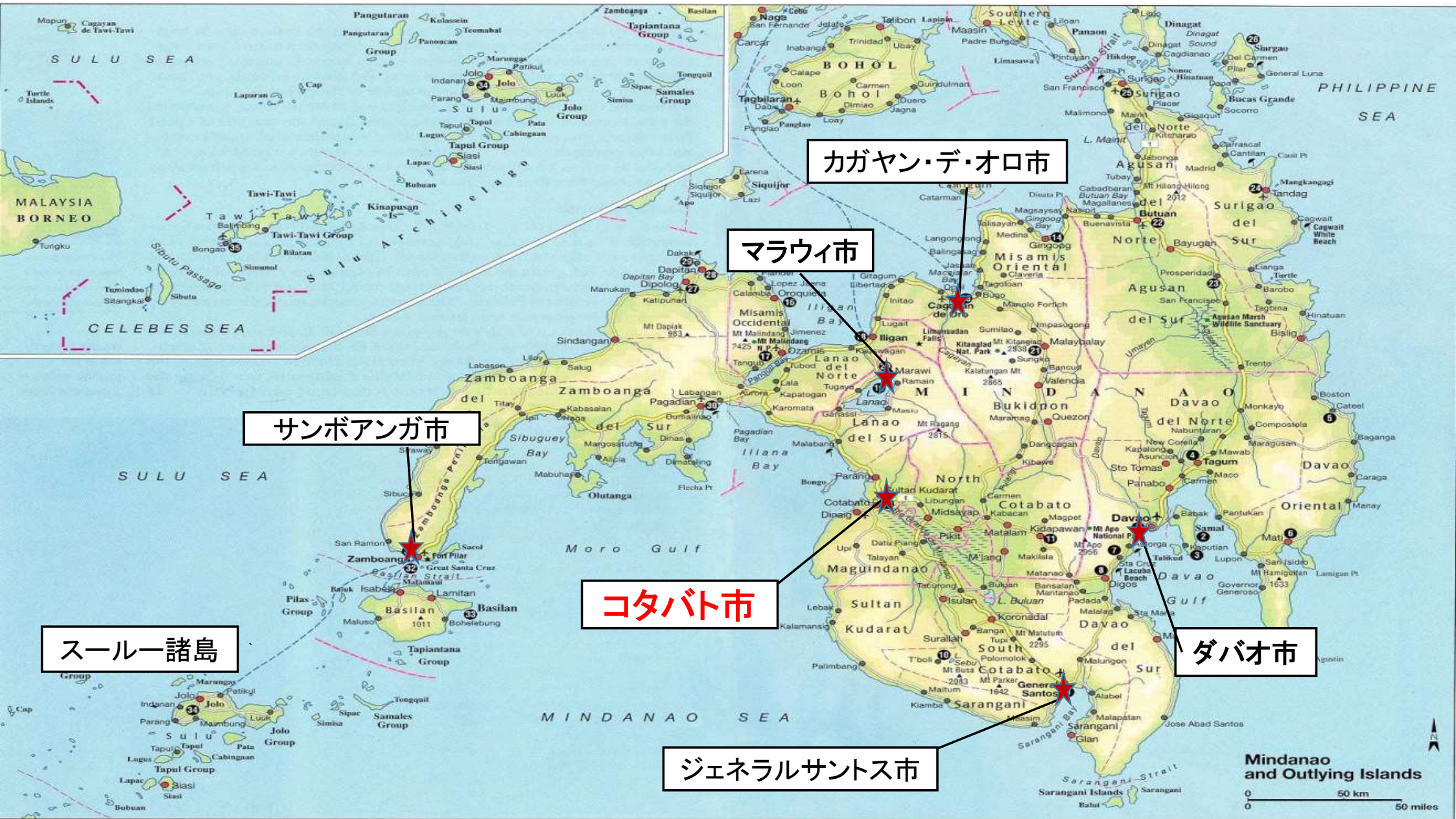
今日の話

2. ミンダナオの紛争について そこから学ぶこと

落合直之さんの話







カガヤン・デ・オロ市

マラウィ市

サンボアンガ市

コタバト市

ダバオ市

スルー諸島

ジェネラルサントス市

Mindanao and Outlying Islands
0 50 km
0 50 miles

ミンダナオ島の歴史(フィリピン独立まで)

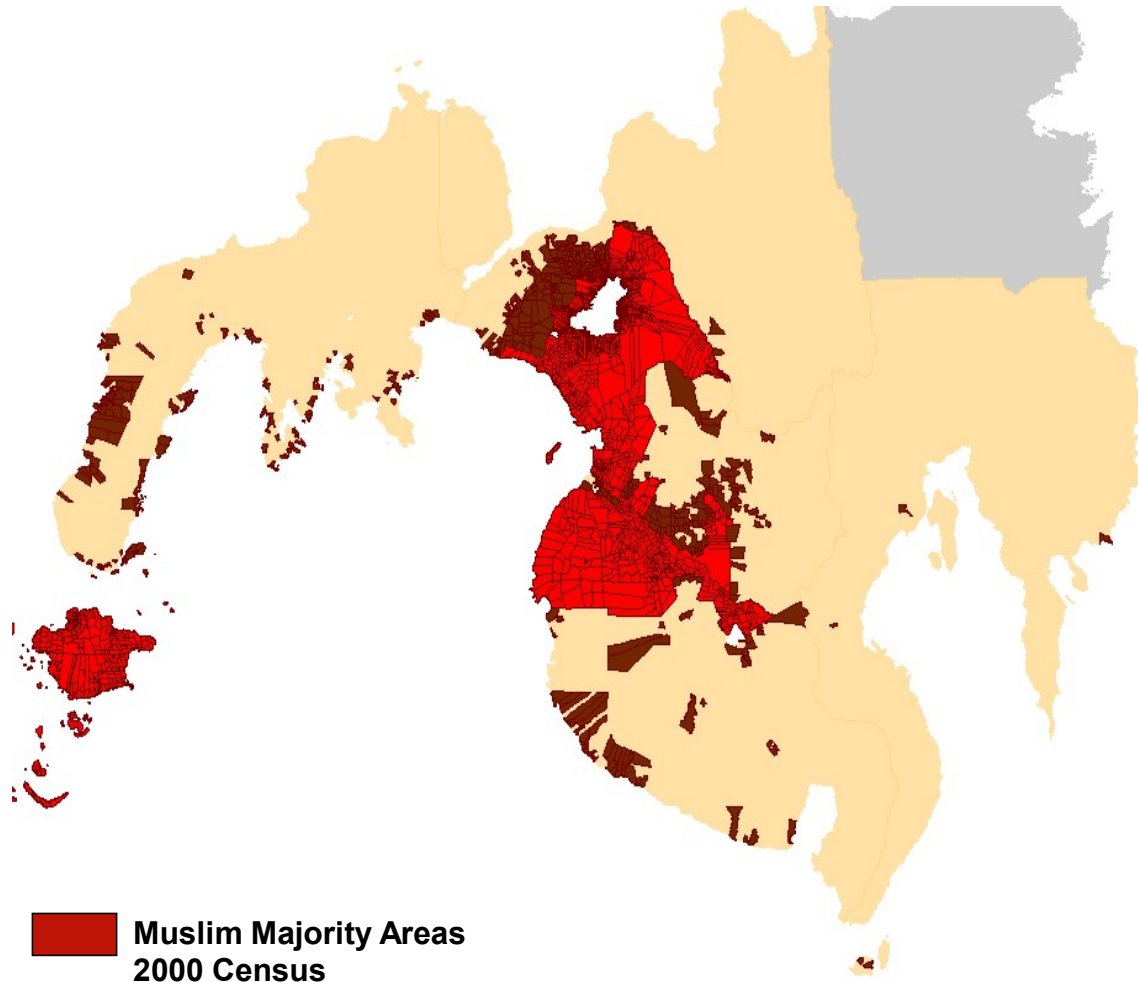
	ミンダナオ島	フィリピン全般
1300年代	<ul style="list-style-type: none"> ミンダナオ島にイスラム教が伝わる 	
1400年代	<ul style="list-style-type: none"> スールー王国勃興 	
1500年代	<ul style="list-style-type: none"> マギンダナオ王国勃興 スペインによる征服行動 	<ul style="list-style-type: none"> スペイン艦隊(マゼラン)のフィリピン上陸(セブ) スペインによるセブ地域及びマニラ地域の統治
1600年代		
1700年代		
1800年代	<ul style="list-style-type: none"> 米国による本格的な植民化 	<ul style="list-style-type: none"> 民族運動の展開 独立運動 米国 - スペイン戦争の結果、フィリピンが米国に割譲 米国によるフィリピン植民化
1900年代	<ul style="list-style-type: none"> スールー王国滅亡 マギンダナオ王国衰退 ルソン島及びビサヤ諸島からの移民・入植本格化 	<ul style="list-style-type: none"> 第二次世界大戦 フィリピン完全独立・主権確立

スペイン
影響下

アメリカ
影響下

日本

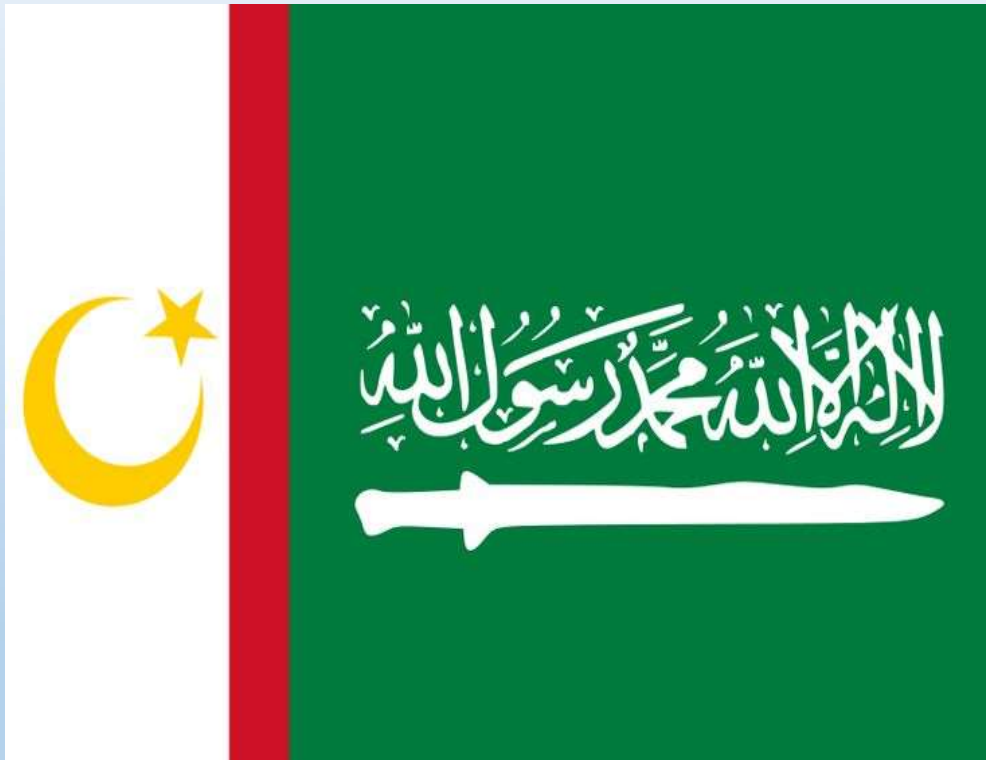
ミンダナオ島の人口(比率)



(ムスリム系人口)

- 1913 – 76%
- 1976 – 40%
- 2008 – 20%

モロ・イスラム解放戦線
Moro Islamic Liberation Front
(MILF) 1984年～



モロ民族解放戦線
Moro National Liberation Front
(MNLF) 1969年～



当初は分離独立を希求

**Ancestral
Domain**

**先祖伝来
の土地**

Self Determination

民族自決



Justice

正義



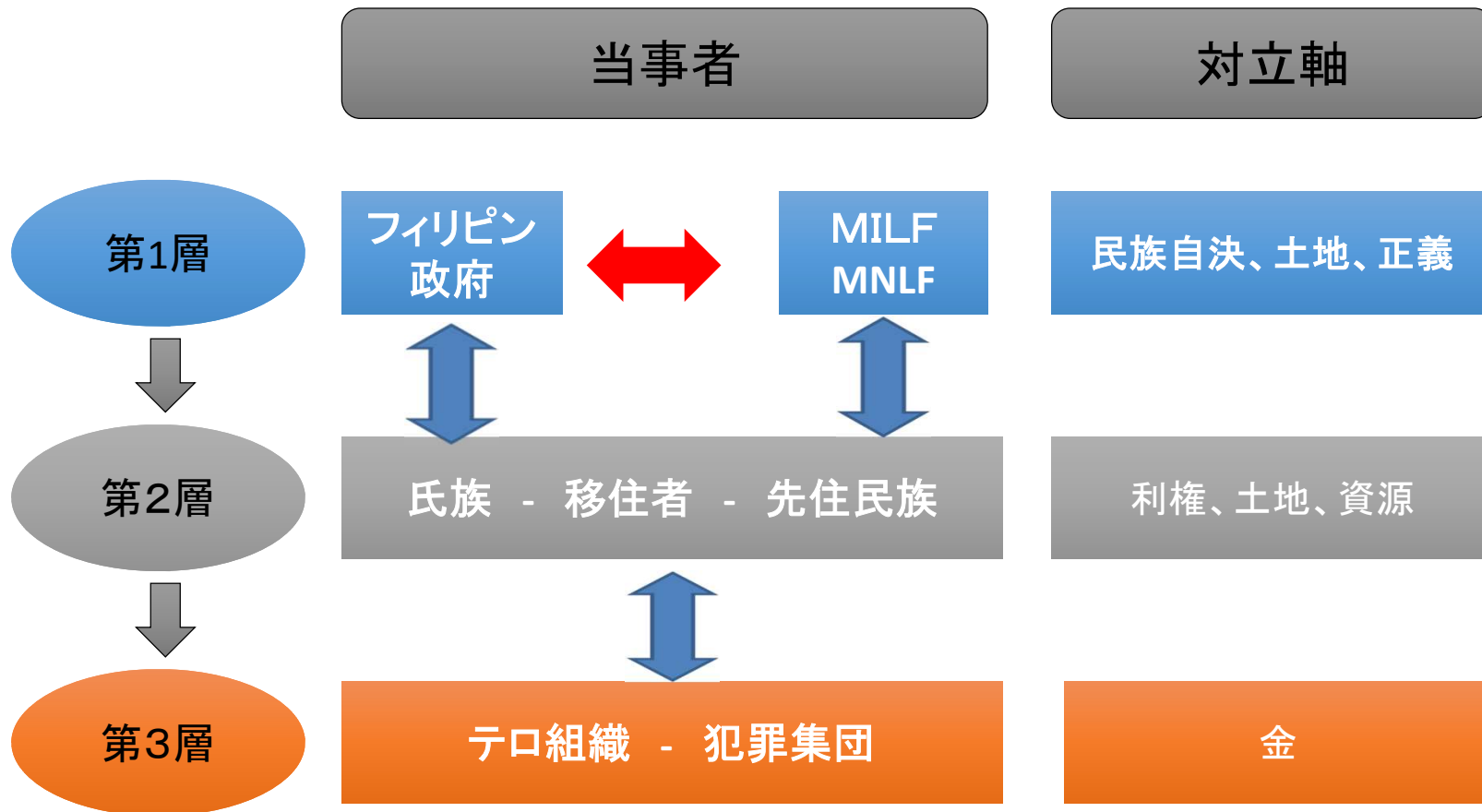
Bangsamoro Islamic Armed Force (BIAF) vs Armed Force of Philippines (AFP)



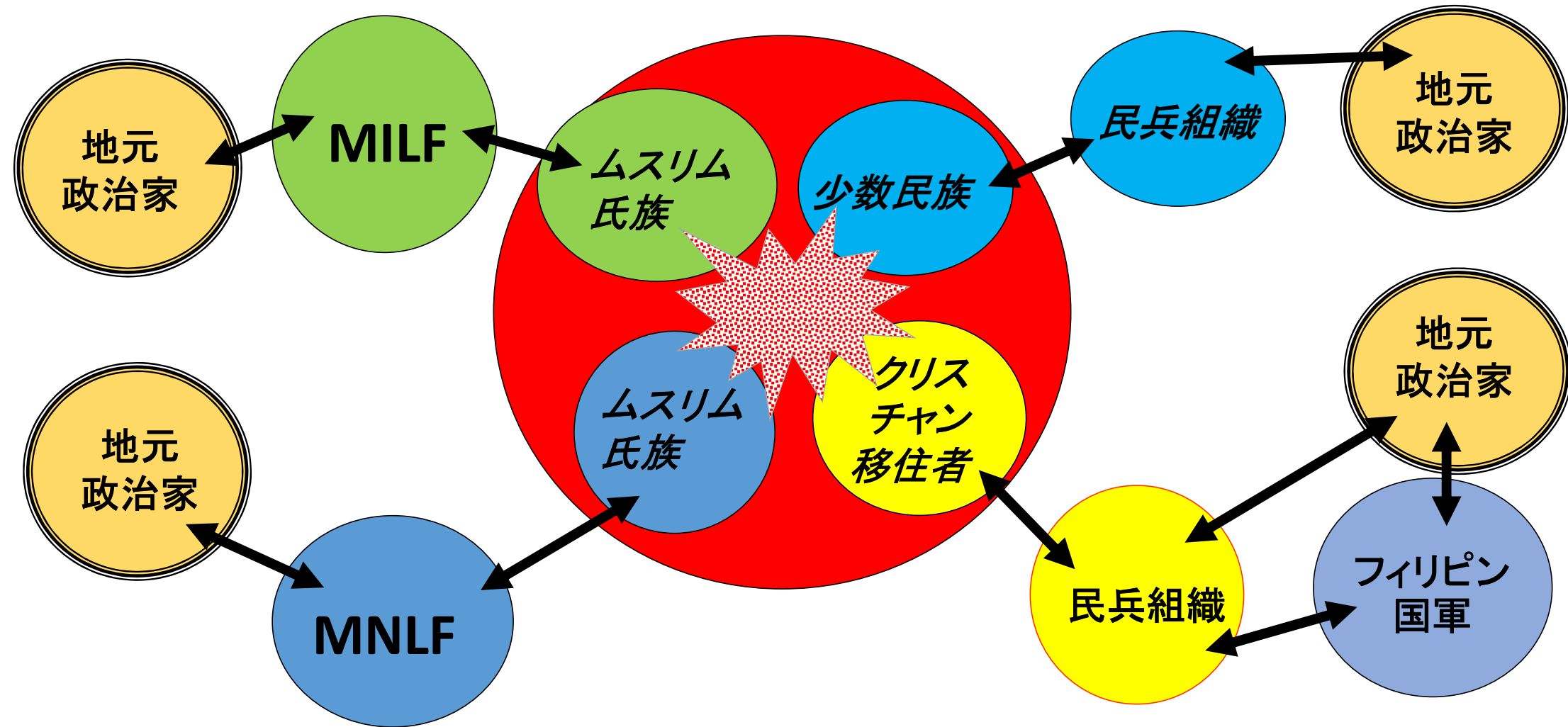
VS



ミンダナオの紛争構造



紛争構造/第2層 氏族—移住者—少数民族



紛争構造/第2層



和平プロセス

1969	モロ民族解放戦線(MNLF)の設立	
1976	フィリピン政府とMNLFが トリポリ協定 を締結	(マルコス大統領)
1984	モロ・イスラム解放戦線(MILF)がMNLFから分派	
1990	ムスリム・ミンダナオ自治政府(ARMM)設立	
1996	フィリピン政府とMNLFが 最終和平合意(FPA) を締結	(ラモス大統領)
1997	フィリピン政府とMILFが和平交渉を開始	
2000	フィリピン政府とMILFとの間で 全面戦争 が勃発	(エストラダ大統領)
2001	フィリピン政府とMILFが トリポリ協定(停戦合意) を締結し、和平交渉を再開	(アロヨ大統領)
2004	ミンダナオ国際監視団(IMT)が設立され、停戦監視活動を開始	
2008	先祖伝来の土地に関わる合意の破綻により、フィリピン政府とMILFとの間で 全面戦争 が勃発	
2011	アキノ大統領とムラドMILF議長の初めての直接会談が東京で開催	
2014	フィリピン政府とMILFが バンサモロ包括和平合意(CAB) を締結	(アキノ大統領)
2018	バンサモロ 基本法(BOL) の制定	(ドゥテルテ大統領)
2019	バンサモロ暫定自治政府の設置(任命)、ARMM廃止	
2025(予定)	バンサモロ自治政府の発足 (選挙)	(マルコスJr大統領)

「開発が和平プロセスに貢献する」

レジリエントな国家の建設 + 人間の安全保障



2006年9月18日



2006年9月20日

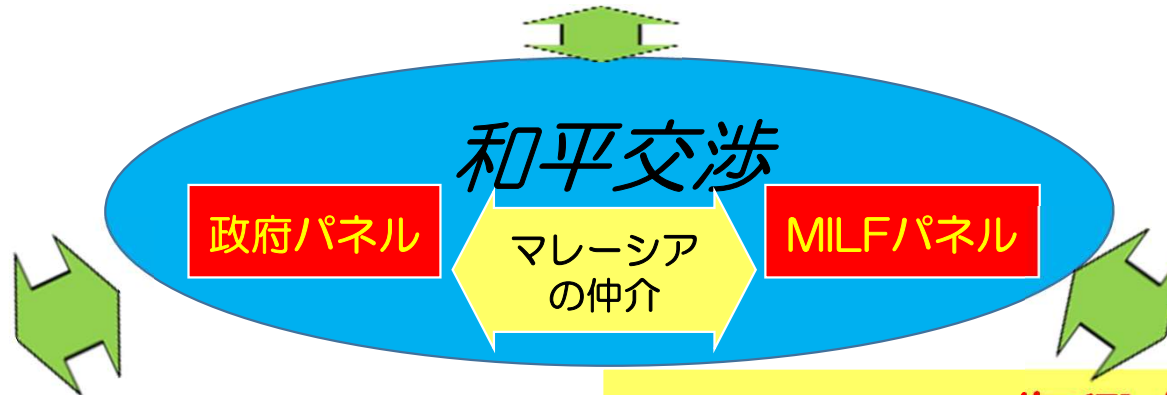
和平交渉メカニズム

国際コンタクト・グループ(ICG)

日本、英国、トルコ、サウジアラビア、国際NGOs

Peace Making

「外交」と「開発」
による取り組み



和平交渉

政府パネル

マレーシア
の仲介

MILFパネル

Peace Keeping

Peace Building

国際監視団(IMT)

マレーシア、ブルネイ、インドネシア、日本、
リビア、ノルウェー、EU

治安

社会経済開発

人道・人権

文民保護

復興/開発

MILF
BDA

BTA

LGU

フィリ
ピン政府

日本政府
JICA



他の
援助機関

<JICAの取り組み>

1. 新しい自治政府の発足 <自決>

- (1) バンサモロ自治政府の発足
 - i) 条令の制定(優先6条令)
(既)行政条令、市民サービス条令、教育条令、選挙条令
(未)地方自治条令、税務条令
 - ii) 開発計画の策定
 - iii) 行政官の育成
- (2) 地方自治体の能力向上

2. 正常化 <正義>

- (1) MILF/BIAF兵士(40,000名)の武装解除、動員解除、国民としての権利付与、生計向上支援、職業訓練、学業支援、
- (2) MILFキャンプ(31ヶ所)の平和で生産的拠点への転換
- (3) 移行期正義(アムネスティ、和解、歴史の見直しなど)

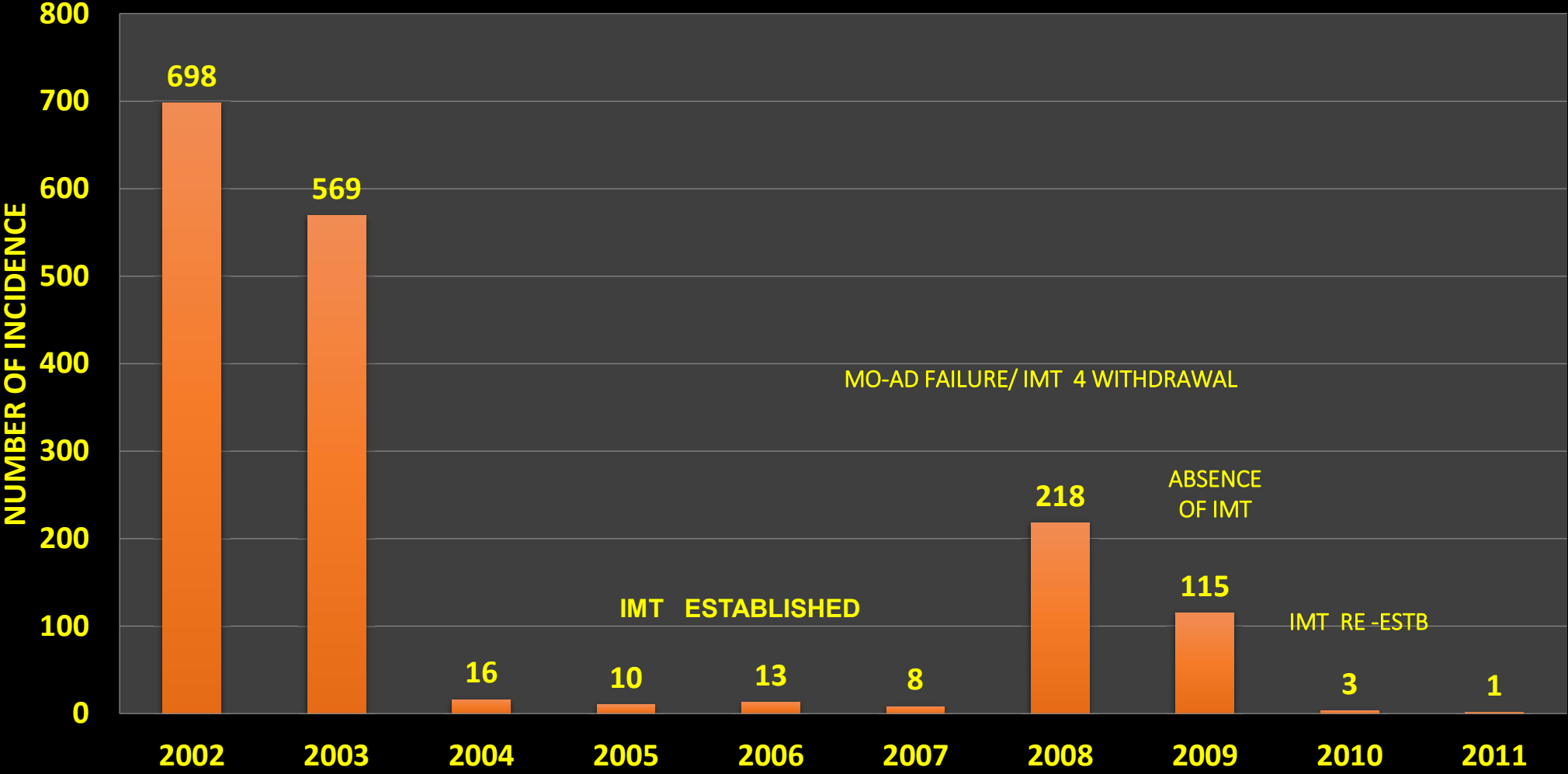
3. 社会経済開発 <先祖伝来の土地>

- (1) インフラ整備(道路、橋梁、空港、港湾、洪水対策など)
- (2) BHNの充足(教育、保健医療、社会福祉など)
- (3) コミュニティ開発、地域開発
- (3) 中小零細企業支援、起業家支援

「開発」による貢献



CEASEFIRE VIOLATIONS



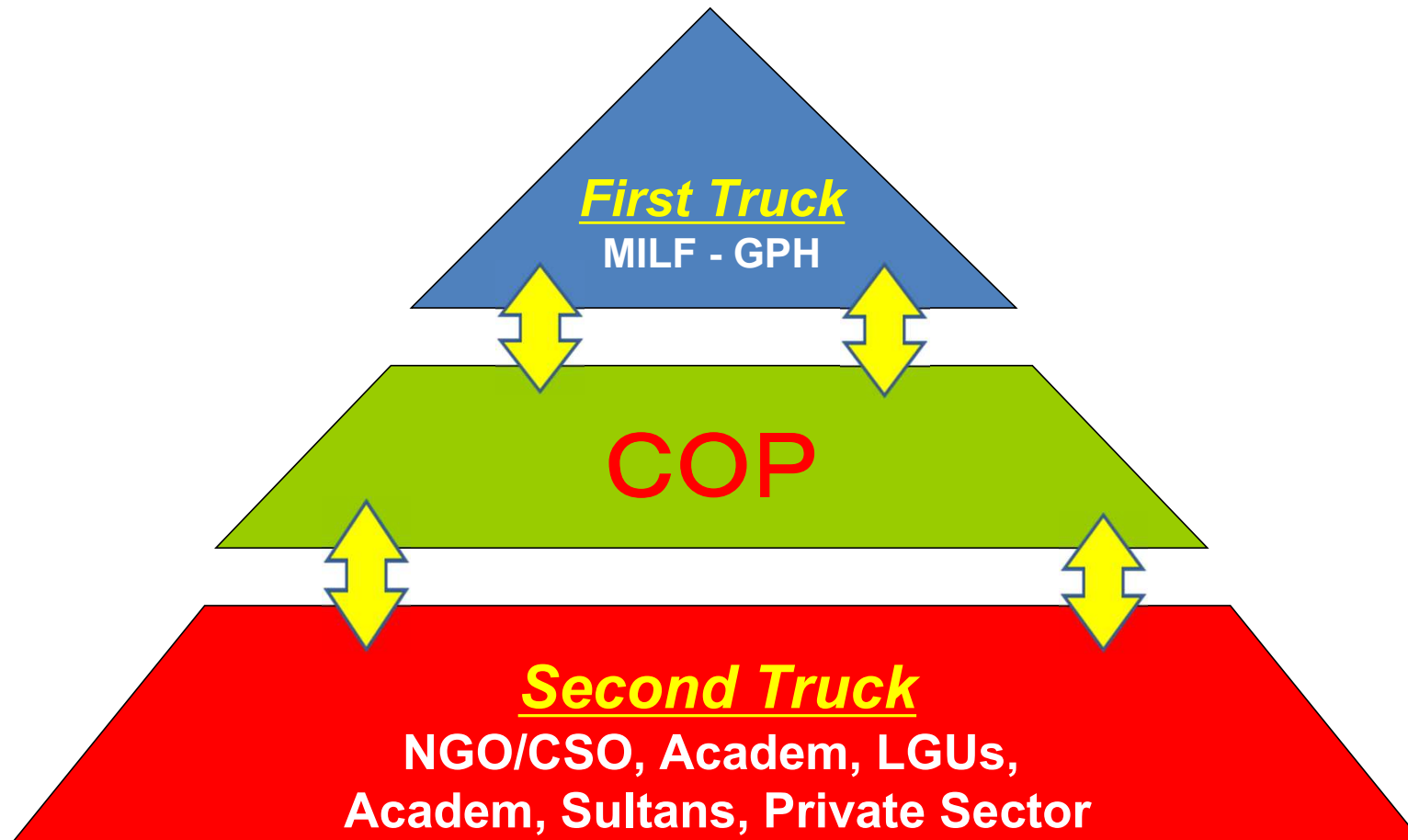
ミンダナオ国際監視団 (IMT)





ミンダナオ平和構築
セミナーin 広島
(Consolidation for Peace
for Mindanao; COP 6)
2014年6月23日－25日

Consolidation for Peace in Mindanao (COP)



暴力の文化から平和の文化へ、開発の貢献

School of Peace



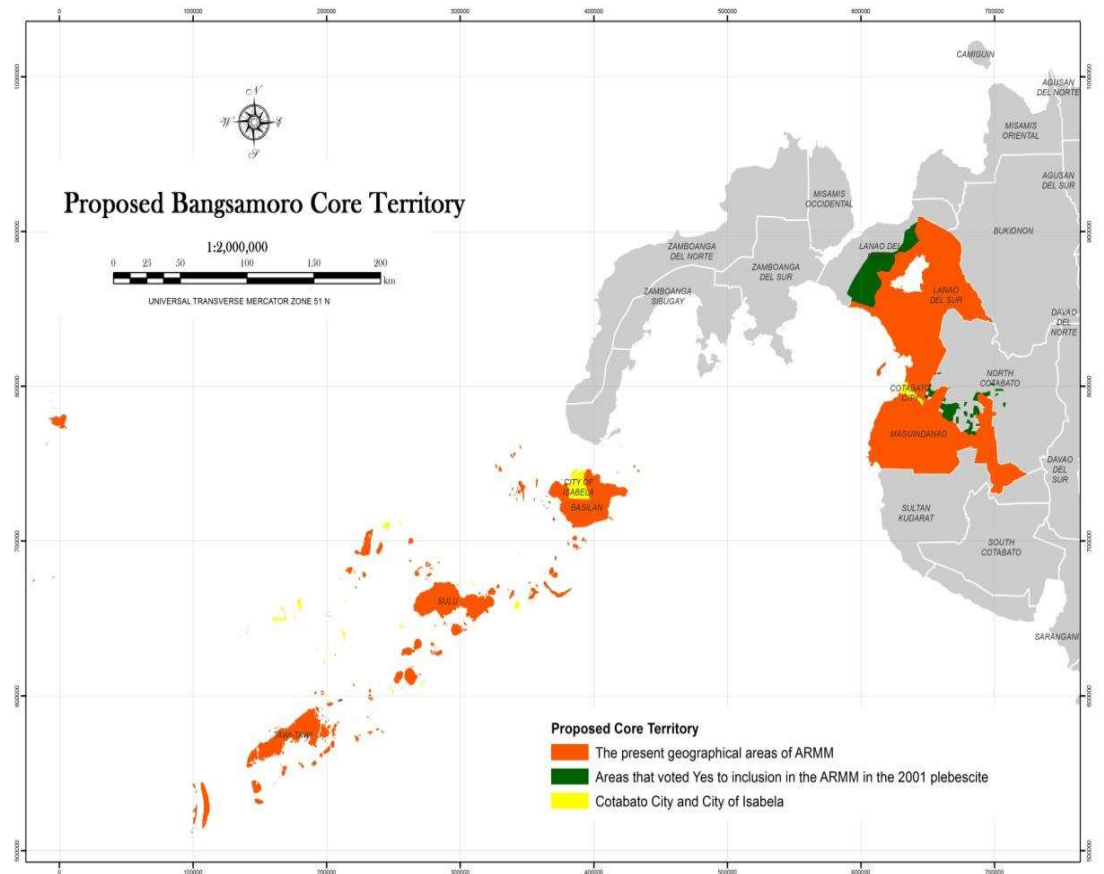
暴力の文化から平和の文化へ、開発の貢献



Bayanihan



Comprehensive Agreement on Bangsamoro (CAB) 27 March 2014



和平合意に基づくバンサモロ基本法(2018年)

－高度な自治政府の設立－

項 目	内 容
バンサモロ基本法	<ul style="list-style-type: none"> ➤ フィリピン共和国憲法に基づく、バンサモロ基本法により統治される。
領 域	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ① 5州2市 ② 北コタバト州内の63町 ③ コタバト市。
バンサモロ自治政府	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 議院内閣制＝バンサモロ議会(定員80名;現在はMILF選出41名、比政府選出39名。2025年以降は比例代表(政党)、地域代表、セクター代表)。 ➤ バンサモロ暫定自治政府(15省庁)の設置。2025年の選挙までは移行期間。
権限の分有	<ul style="list-style-type: none"> ➤ (中央政府)国防、安全保障、外交、造幣、通貨政策、市民権などの権限を留保する。 ➤ (自治政府)それ以外(税源、財政、金融銀行制度など59項目。シャリア法廷の設置)
富の共有・分有	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 独自の歳入源を新設し、税、手数料の徴収に関する権限を有する。 ➤ 国内外から贈与、寄付、中央政府から包括的補助金を受ける。 ➤ 管轄地域の陸地、海洋における資源探査、開発、それらの利用を通して発生する歳入について、正当かつ公平な割り当てを得る。 ➤ 非金属資源はバンサモロ自治政府が100%、金属資源はバンサモロ75%に対し中央政府が25%、化石燃料・天然ガス・石炭・ウラニウムはバンサモロと政府ともに50%。 ➤ 包括補助金(Block Grant)は内国歳入庁の歳入の5%。特別開発基金を初年度70億ペソ、次年度より5年間にわたり毎年50億ペソを交付する。

紛争構造/第3層 マラウイ内戦(2017.5.23 -)



平和の配当ーコタバト市の現在



ミンダナオ和平プロセスにおける平和の創造

- 対話の維持及び促進
 - 相互の理解と尊重
 - 尊厳の確保
 - 社会及び政治への参加
 - 暮らしの向上及び維持
-
- ◆ 制度的枠組みの構築
 - ◆ 組織及び人材の育成



妥協
協調
協働